

一高校1年生に対するアンケート調査結果の分析から一

甲斐 順

1. はじめに

甲斐（2014）は、平成18年度版と平成24年度版の中学校英語教科書で学習し、平成25年度に入学した高校生にアンケートを行い、中学校でどのような歌がどう扱われているか明らかにしている。その結果、生徒の9割以上が授業で歌が扱われ、教科書に掲載されている歌以外にも様々な歌が扱われていることを示した。そして、歌が持つ効果に対する生徒の認識についての調査の必要性を指摘していた。

本研究では、平成24年度版と平成28年度版の中学校英語教科書で学習し、平成29年度に入学した高校生を対象として、生徒の歌についての認識に関する項目を加えて改めて歌の扱いのアンケートを実施し、教育的示唆を行うことを目的とする。

2. 先行研究

本節では、まず音楽や歌を授業で扱った先行研究について触れる。次に学習指導要領での歌の扱いについて触れた後、甲斐（2014）の研究について述べる。

音楽や歌を授業で扱うことで、授業の雰囲気作りや歌詞の持つメッセージ性が学習者の気持ちや感情に訴える効果があるとされる（中井, 2000; 瀧口, 2003）。Millington（2011）は、若い学習者の教室で歌を使う利点として、歌が持つ柔軟性を指摘している。歌は、聞く力、発音、話す力を改善し、語彙、文構造、母語の文化が反映されていること¹⁾を学習したりすることができる教育的な道具であり、楽しむことができると述べている。ただし、歌に使用されている言語、語彙、文構造などは、話し言葉で用いられているものと大いに異なる場合があり、教室で用いる際、教師が適切な歌を用いることが必要であるとも述べている。選曲について、生徒に好きな歌を教室に持ってこさせる方法もある（Harmer, 2015）。須田（2017）は、英語の歌は発音、語彙・表現、文法の導入に関してインプットとアウトプットの両方に活かせる優れた素材であると指摘する。曲を聴いた後、歌詞を音読し、何度も歌いこむことで、脚韻やリズムをつかみ感情を込めて歌えるようになるため、「英語で発信する」ための基礎力を養うことができると述べている。先行研究から、歌は授業の雰囲気作りから、聞く力、語彙力、文法力、話す力などを培うだけでなく、歌が持つメッセージにより学習者の心情に訴える効果があることがわかる。

学習指導要領では、昭和26年の中学校・高等学校学習指導要領外国語科英語編（試案）改訂版で、中学校1年生で歌を歌うことが指導に含まれていたが、昭和33年版の中学校学習指導要領を最後に、平成20年版まで言及がない（甲斐, 2014）。

だが、歌は教科書に付録扱いで連綿と掲載されている。

教科書で扱われている英語の歌についての研究に、甲斐（2014）がある。甲斐は、平成18年度版と平成24年度版の中学校英語教科書で学習した高校1年生241人を対象として、教科書に掲載されている英語の歌や教科書以外で扱われている歌について、授業でどう扱われ、さらによく覚えている歌について筆記によりアンケート調査を行った。その結果、9割以上の生徒が、歌は授業で扱われていたと回答した。教科書に掲載されている歌の中では、“I Just Called to Say I Love You”が、5社の教科書で扱われ、回答者237人のうち92人が授業で扱われていたと回答していた。教科書掲載の歌の扱いについては、「授業で歌った」が最も多く、次いで「曲を聴きながら、歌詞の穴埋めを行った（ディクテーション）」、「ただ数回聴いただけ」、「その他」の順であった。教科書以外の歌の上位には、“Last Christmas”、“We Are the World”、“Top of the World”、“I Was Born to Love You”、“Bad Day”という順で扱われていたことを示した²⁾。よく覚えている歌の上位には、“We Are the World”、“Last Christmas”、“Hello, Goodbye”、“Call Me Maybe”、“I Just Called to Say I Love You”の順であった。甲斐（2014）は、歌の効果に対する生徒の認識について調査する必要性を訴えている。

筆者の知る限り、甲斐（2014）以外に、この課題に取り組んでる先行研究は見られない。そこで本研究では、歌の効果に対する生徒の認識に関する質問項目を新たに設け、教育的示唆を行うことを目的として調査を実施する。甲斐（2014）と本研究の調査対象者は、中学校3年時に教科書が改訂されるという共通点があるが、4年経過していることもあり、歌の扱いについて変化が見られるかどうかも含めて調査を行う。本研究の研究課題は、次の4点である。

- ① 中学校英語教科書に記載されている歌は、授業で扱われているか。扱われている場合、どのように扱われているか。
- ② 教科書以外で扱われている歌はあるか。
- ③ よく覚えている歌はあるか³⁾。
- ④ 英語の授業を通じて学習した歌は、学習者に効果はあるか。

4. 調査方法

4.1 調査対象者

調査対象者は神奈川県内の公立高校1年生で、「コミュニケーション英語Ⅰ」を受講している2クラス及び「英語表現Ⅰ」を受講している2クラスの合計4クラス、159人である。この159人のうち、英検の取得状況は、2級取得者5人、準2級64人、3級33人、4級1人という状況で、4クラスの全員が、国公立大学を中心に私立も含めた4年生大学への進学を目指していた。調査は年度当初4月の授業中に担当教員（筆者）の調査の依頼に応じて回答した。調査開始時に口頭にて依頼し、合意を得た。欠席者は2人おり、実際の調査対象者は157人であった。

4.2 方法

アンケートで分析対象とする教科書は、平成24年度版中学校英語教科書6種類の

1,2年生用及び平成28年度版中学校英語教科書 6 種類の 3 年生用の合計18冊である。6 種類の教科書は、NEW HORIZON（以下 NH）、NEW CROWN（NC）、TOTAL ENGLISH（TE）、SUNSHINE（SS）、ONE WORLD（OW）、COLUMBUS21（C21）である。18冊のうち、平成29年度に入学した高校生は、中学校1,2年生で平成24年度版英語教科書を、3 年生で改訂された平成28年度版英語教科書を使用していた。この18冊の教科書の目次で英語の歌を調べ、掲載ページを確認し、歌の名前をアンケートに記載した。表 1 は、平成24年度版1,2年生用及び平成28年度版 3 年生用中学校英語教科書に掲載されている英語の歌である⁴⁾。

表 1. 平成24年度版1,2年生用及び平成28年度版 3 年生用中学校英語教科書に掲載されている英語の歌

教科書名	平成24年度版 Book 1	平成24年度版 Book 2	平成28年度版 Book 3
NH	<ul style="list-style-type: none"> ・ Sing ・ Take Me Out to the Ball Game 	<ul style="list-style-type: none"> ・ I Just Called to Say I Love You ・ Stand by Me ・ Grandfather' s Clock ・ If We Hold on Together 	<ul style="list-style-type: none"> ・ Imagine ・ We Are the World
NC	<ul style="list-style-type: none"> ・ Sing ・ Hello, Goodbye ・ Every Child Has a Beautiful Name 	<ul style="list-style-type: none"> ・ Stand by Me ・ Thank You for the Music ・ I Just Called to Say I Love You 	<ul style="list-style-type: none"> ・ Heal the World ・ Change the World ・ You Raise Me Up ・ ヒロシマの折鶴
TE	<ul style="list-style-type: none"> ・ Sing ・ Hello, Goodbye ・ Stand by Me 	<ul style="list-style-type: none"> ・ Yesterday Once More ・ I Just Called to Say I Love You ・ Imagine 	<ul style="list-style-type: none"> ・ If We Hold on Together ・ We Are the World ・ Hero
SS	<ul style="list-style-type: none"> ・ Sing ・ Hello, Goodbye ・ Please Mr. Postman ・ Eternal Flame 	<ul style="list-style-type: none"> ・ I Just Called to Say I Love You ・ If We Hold On Together ・ 未来へ(English Version) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ Tie a Yellow Ribbon Round the Ole Oak Tree ・ Heal the World ・ Honesty
OW	<ul style="list-style-type: none"> ・ Sing ・ She Loves You 	<ul style="list-style-type: none"> ・ Elm Tree Dreams ・ Vacation 	<ul style="list-style-type: none"> ・ Top of the World ・ Smile
C21	<ul style="list-style-type: none"> ・ Hello, Goodbye ・ Sing 	<ul style="list-style-type: none"> ・ Imagine ・ I Just Called to Say I Love You 	<ul style="list-style-type: none"> ・ You've Got a Friend ・ Graduation Day

筆者の勤務校 1 年生 4 クラスの合計157人に、調査の主旨を説明し、アンケートを依頼した。アンケートの内容は、中学校在学時に使用していた教科書名、中学校 1 ～ 3 年生のそれぞれの教科書に掲載されていた歌、及びその取り扱い、教科書以外で扱われていた歌の名前、授業でよく扱われていた歌の中でよく覚えている歌、中学校の英語の授業を通じてどのような効果があったか、について、選択または記

述により筆記で回答するものであった（資料参照）。

5. 結果

アンケートの質問項目の1番は、中学校1年生、2年生で使用していた教科書の調査で、表2はそれをまとめたものである。C21を使用していた生徒が83人で半数以上を占め、次にTE 48人、NC 13人、SS 8人、NH 4人で、OWは0人であった。1人が未回答であった。

表2. 中学校1年生・2年生で使用していた教科書とその人数

教科書名	NH	NC	TE	SS	OW	C21	合計
人数	4	13	48	8	0	83	156

アンケートの質問項目の2番は、中学校1,2年生で掲載されていた歌が扱われたかどうかに関するもので、扱われていた歌に人数と使用教科書に占める割合を示したのが表3である。OWの使用者は0なので、表から削除している。扱われていた歌の高い順に各教科書を見ていくと、NHが“I Just Called to Say I Love You” (50.0%) に次いで、“Stand by Me”、“Grandfather’s Clock”、“If We Hold on Together”が同率 (25.0%) の順で、NCが“Stand by Me” (53.8%)、“I Just Called to Say I Love You” (30.8%)、“Hello, Goodbye” (23.1%) の順、TEが“Stand by Me” (56.3%)、“I Just Called to Say I Love You” (54.2%)、“Hello, Goodbye” (50.0%) の順、SSが“Hello, Goodbye” (37.5%)、“Sing”と“I Just Called to Say I Love You”が同率 (25.0%) の順、C21が“Hello, Goodbye” (59.0%)、“I Just Called to Say I Love You” (41.0%)、“Imagine” (37.3%) の順となっている。“I Just Called to Say I Love You”は、OWを除く5社の教科書で扱われており、156人中68人が授業で扱われていたと回答している。甲斐 (2014) でも同じ歌が、237人中92人となっており、本研究でも授業でよく扱われていることを示したと言える。“Hello, Goodbye”は、4社の教科書で扱われており、79人が授業で扱われていると回答した。甲斐 (2014) では237人中83人となっており、こちらの歌も授業でよく扱われていると言えるだろう。“Sing”は6種類の教科書すべてBook 1に掲載されているが、46人にとどまっている。NHは使用人数が少ないためか、“Sing”は扱われていなかった。

アンケートの質問項目の3番では、表3に掲載されている歌がどのように扱われていたかをたずねた。「授業で歌った」が87人、次いで「曲を聴きながら、歌詞の穴埋めを行った (ディクテーション)」が44人、「ただ数回聴いただけ」が22人、「その他」が7人であった。「その他」には、「歌詞カードを配られ、それを曲を聞いて並べかえるということをした」、「テストにも歌詞の穴埋めで選択肢の中から選ぶものがあつた」、「暗唱も行つた」となっていた。なお、甲斐 (2014) では、「授業で歌った」が127人、次いで「曲を聴きながら、歌詞の穴埋めを行った (ディクテーション)」が89人、「ただ数回聴いただけ」が28人、「その他」が3人であつた。

表3. 平成24年度版教科書の英語の歌が扱われた人数とその割合

教科書名	Book 1			Book 2		
	歌の題名	人数	割合	歌の題名	人数	割合
NH	・ Sing	0	0.0%	・ I Just Called to Say I Love You	2	50.0%
	・ Take Me Out to the Ball Game	0	0.0%	・ Stand by Me	1	25.0%
				・ Grandfather's Clock	1	25.0%
				・ If We Hold on Together	1	25.0%
NC	・ Sing	1	7.7%	・ Stand by Me	7	53.8%
	・ Hello, Goodbye	3	23.1%	・ Thank You for the Music	1	7.7%
	・ Every Child Has a Beautiful Name	1	7.7%	・ I Just Called to Say I Love You	4	30.8%
TE	・ Sing	16	33.3%	・ Yesterday Once More	17	35.4%
	・ Hello, Goodbye	24	50.0%	・ I Just Called to Say I Love You	26	54.2%
	・ Stand by Me	27	56.3%	・ Imagine	14	29.2%
SS	・ Sing	2	25.0%	・ I Just Called to Say I Love You	2	25.0%
	・ Hello, Goodbye	3	37.5%	・ If We Hold On Together	0	0.0%
	・ Please Mr. Postman	1	12.5%	・ 未来へ(English Version)	0	0.0%
	・ Eternal Flame	0	0.0%			
C21	・ Hello, Goodbye	49	59.0%	・ Imagine	31	37.3%
	・ Sing	27	32.5%	・ I Just Called to Say I Love You	34	41.0%

た。授業では、主として歌を歌っていることがわかるが、複数回答が可能なため、歌を歌うとともにディクテーションを組み合わせる活動に取り組むなどの結果も見られた。

図1は、中学校1,2年生の時の教科書における歌の扱いについて、甲斐(2014)と合わせて表したものである。

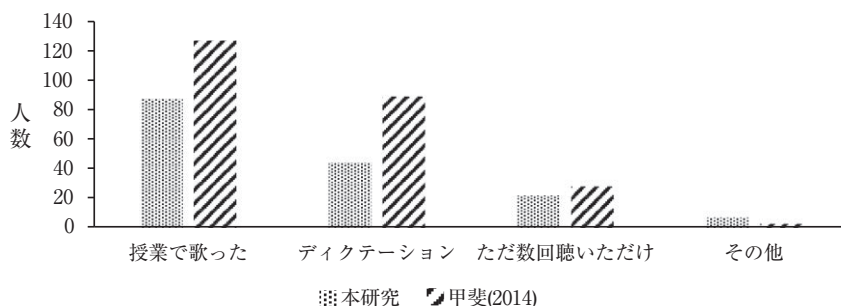


図1. 中学校1,2年生の時の教科書における歌の扱い

それぞれの実験の調査対象者数が異なるが、「ただ数回聴いただけ」や「その他」の人数はほぼ変わらないが、「授業で歌った」、「曲を聴きながら、歌詞の穴埋めを行った（ディクテーション）」については、今回の調査ではかなり人数が減っている。

アンケートの質問項目の4番では、中学校3年生のときの使用教科書を調べた。表4はそれをまとめたものである。

表4. 中学校3年生で使用していた教科書とその人数

教科書名	NH	NC	TE	SS	OW	C21	合計
人数	3	13	50	8	1	82	157

C21を使用していた生徒が82人で半数以上を占め、次に TE 50人、NC 13人、SS 8人、NH 3人で、OW は1人であった。

アンケートの質問項目の5番は、中学校3年生で掲載されていた歌が扱われたかどうかに関するもので、その結果をまとめたのが表5である。扱われていた歌で人数が多いのは、“We Are the World”で NH と TE の合計人数は、45人となっており、甲斐（2014）の調査の50人と同様、扱われる傾向が高い状況がうかがえる。SSやOWの歌は1曲も扱われていなかった。NHの使用人数は3人にもかかわらず、記載されていた歌“Imagine”や“We Are the World”は授業で扱われているのに対して、使用人数がNHより5人ほど多いSSに記載されていた歌“Tie a Yellow Ribbon Round the Ole Oak Tree”，“Heal the World”，“Honesty”は一つ

表5. 平成24年度版教科書の英語の歌が扱われた人数とその割合

教科書名	Book 3		
	歌の題名	人数	割合
NH	・ Imagine	3	100.0%
	・ We Are the World	2	66.7%
NC	・ Heal the World	3	23.1%
	・ Change the World	5	38.5%
	・ You Raise Me Up	1	7.7%
	・ ヒロシマの折鶴	2	15.4%
TE	・ If We Hold on Together	8	16.0%
	・ We Are the World	43	86.0%
	・ Hero	10	20.0%
SS	・ Tie a Yellow Ribbon Round the Ole Oak Tree	0	0.0%
	・ Heal the World	0	0.0%
	・ Honesty	0	0.0%
OW	・ Top of the World	0	0.0%
	・ Smile	0	0.0%
C21	・ You've Got a Friend	9	11.0%
	・ Graduation Day	6	7.3%

も扱われていない⁵⁾。ちなみに甲斐（2014）で、平成24年版のSSの3年生版教科書に掲載されていた歌は、本研究と同じ歌で、21人がSSを使用し、“Tie a Yellow Ribbon Round the Ole Oak Tree”は0人（0%），“Heal the World”は2人（9.5%），“Honesty”は1人（4.8%）であった。“Tie a Yellow Ribbon Round the Ole Oak Tree”「幸せの黄色いリボン」は、甲斐（2014）でも本研究でも扱われていない。この歌は、刑期を終えて家路に向かう男性の女性を思う高揚した気持ちが軽快なリズムとともに歌われ、脚韻が随所に踏まれているが、やや速い曲調で、日本人には難しいと言われている /l/ や /r/ の音が連続する歌詞 ‘a yellow ribbon ’round the ale oak tree’ が繰り返されており、授業で扱いにくいかもしれない。

アンケートの質問項目の6番では、教科書に掲載されている歌が授業でどのように扱われていたかをたずねた。先に見た中学校1,2年生同様、中学校3年生での歌の扱われ方についても「授業で歌った」が36人、次いで「曲を聴きながら、歌詞の穴埋めを行った（ディクテーション）」が26人、「ただ数回聴いただけ」が23人、「その他」が8人となっていた。「その他」については、「“We Are the World”のDVDを見た」や「歌詞カードを配られ、それを曲を聞いて並べかえるということをした」などとなっていた。中学校1,2年生の時と比較すると「授業で歌った」や「曲を聴きながら、歌詞の穴埋めを行った（ディクテーション）」の人数が大幅に減る。これは甲斐（2014）の「授業で歌った 38人」、「曲を聴きながら、歌詞の穴埋めを行った（ディクテーション）26人」、「ただ数回聴いただけ 25人」、「その他 7人」と類似の傾向を示している。

図2は、中学校3年生の時の教科書における歌の扱いについて甲斐（2014）と合わせて表したものである。

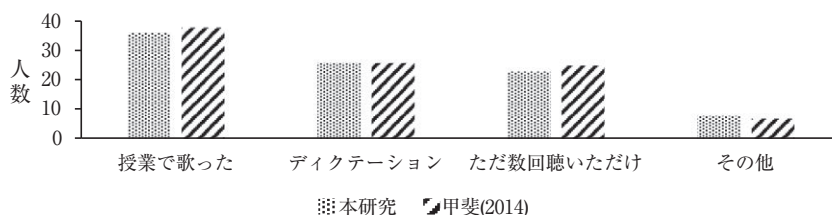


図2. 中学校3年生の時の教科書における歌の扱い

調査対象者数が異なるものの、甲斐（2014）と本研究ではほとんど人数が変わっていない。むしろ、甲斐（2014）よりも全体に占める割合が増えていると言えるだろう。

中学校3年生の教科書に掲載されている歌が一部を除くとあまり使われていないのは、高校入試を控えていることが要因として考えられる。歌が直接入学試験問題で問われることはほとんど見られないことから、歌よりも高校入試に直結することが授業で指導されている可能性がある。

アンケートの質問項目の7番では、中学校の教科書以外で扱われていた歌について、具体的に記述させ、50曲以上の歌の名前があがった。人数が二桁を超えた上位12位までの歌を表6にまとめた。

表6. 教科書以外で扱われていた歌で人数の多かった上位12位までの歌と人数

順位	歌名	人数
1	Let It Go	41
2	Last Christmas	32
3	We Are the World	25
4	Top of the World	24
5	Bad Day	18
6	Shake It Off	16
7	Take Me Home, Country Roads	14
8	A Whole New World	13
9	Stand by Me	12
9	Good Time	12
11	What Makes You Beautiful	11
12	I Really Like You	10
12	I Was Born to Love You	10

『アナと雪の女王』で大ヒットした“Let It Go”が1位となっている。“We Are the World”, “Top of the World”, “Stand by Me” が表に入っているが、掲載されていない教科書を使用していた調査対象者の回答である。ちなみに, “We Are the World” は, OW が1人, C21が24人, “Top of the World” は, TE が10人, SS が2人, C21が12人, “Stand by Me” は, C21が12人であった。1970年代, 1980年代に発売され, ヒットした歌に混じって, 2010年代に発売されている歌も入っており, 様々な歌が授業で用いられていることがわかる。ちなみに甲斐 (2014) では, “Last Christmas”, “We Are the World”, “Top of the World”, “I Was Born to Love You”, “Bad Day”, “Hello, Goodbye”, “Call Me Maybe”, “I Don’t Want to Miss A Thing”, “Hey Jude”, “Sing”, “What Makes You Beautiful” の順で, 本研究では, “I Was Born to Love You” が順位を下けているが, “Last Christmas”, “We Are the World”, “Top of the World”, “Bad Day” は上位5位に残っており, 甲斐 (2014) に引き続き, よく授業で取り上げられていることがわかる。

調査対象者のアンケートには, 「1か月に1曲で3年間」や「その時はやっていた英語の歌や季節にあった歌」, 「生徒たちのリクエストで毎月1曲歌っていた」, 「授業の始めに毎回歌っていました」などの記述もあり, 毎月異なる歌が用いられていたという記述も複数見られた。曲名を忘れたと回答しているものやワン・ダ

イレクション、テイラー・スウィフトなどの歌手名だけで歌の名前が記載されていない記述もあり、実際にはより多くの歌が授業で扱われていた可能性がある。

アンケートの質問項目の8番は、「中学校の英語の授業で扱われた歌の中でよく覚えている歌は何ですか。(複数回答可)」という質問で、これに対して、回答数の多かったものを上位7曲までを順にまとめたものが表7である。

表7. 中学校の英語の授業でよく覚えている歌の順位と人数⁶⁾

順位	歌名	人数
1	We Are the World	35
2	All I want for Christmas Is You	15
3	Bad Day	11
4	Last Christmas	10
5	Let It Go	9
5	What Do You Mean?	9
6	Top of the World	7
7	Shake It Off	6
7	A Whole New World	6
7	Good Time	6
7	Call Me Maybe	6
7	One Thing	6

表6に載っていない“All I Want for Christmas Is You”や“What Do You Mean?”などが見られる。“We Are the World”は、157人中35人ということで、全体の22.3%に当たり、5人に1人以上が覚えている計算になる。この35人のうち、NHが1人、TEが21人、OWが1人、C21が12人で、教科書に掲載されていなかったOW、C21を使用していた調査対象者が含まれている。また、6位に入っている“Top of the World”は、OWでしか掲載されていないが、TEで3人、SSが1人、C21が3人この歌を覚えていると回答していた。教科書に載っている歌も覚えているが、むしろ教科書に掲載されていなかった歌の方が覚えているようである。ちなみに甲斐(2014)では、“We Are the World”, “Last Christmas”, “Hello, Goodbye”, “Call Me Maybe”, “I Just Called to Say I Love You”, “Bad Day”, “I Don’t Want To Miss A Thing”, “Top of the World”, “Hey Jude”, “Stand by Me”の順番であった。本研究でも、甲斐(2014)で見られた上位の歌がいくつか見られるが、ビートルズの歌が上位から消えているのが大きな相違点と言える。

アンケートの質問項目の最後は、「中学校の英語の授業を通じてどのような効果がありましたか。(複数回答可)」というもので、157人中151人が回答した。図3は、歌を通じて効果のあったと生徒が認識した項目を表したものである⁷⁾。

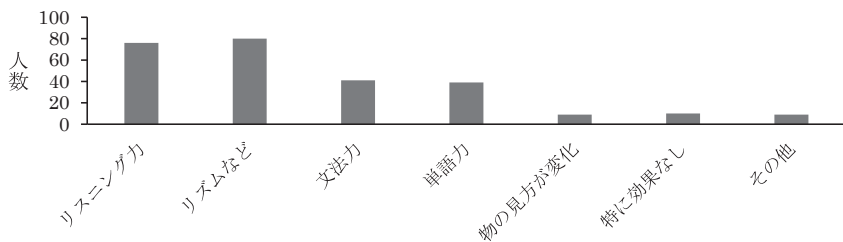


図3. 歌を通じて効果のあったと生徒が認識した項目

「リスニング力がついた」は76人, 「英語のリズムやイントネーションが身に付いた」は80人, 「文法力がついた」は41人, 「単語力がついた」は39人, 「歌詞を通じて物の見方が変わった(具体例)」は9人, 「特に効果はなかった」は10人, 「その他」が9人であった。複数回答が可能である質問項目であるが, 歌を通じて, 音声面を中心とした項目に効果を感じている生徒が多いことがわかる。文法力や語彙力もついたと感じている調査対象者も多数存在する。「歌詞を通じて物の見方が変わった(具体例)」は9人いた。「人が主語。全部自分からものごとを見る」と「You've Got A Friendの歌詞」とのコメントは見られたが, それ以外の7人は具体的なコメントを記していなかった。「その他」としては「英語の歌(外国の歌)」に興味を持つようになった」が複数, 「英語が好きになった」, 「英語が楽しくなった」, 「英語を積極的に聴くようになった」, 「外国に興味を持つようになった」といったコメントが見られた。英語の歌を通じて, 英語や歌などに好意的な見解を示すようになったことがうかがえる。

「特に効果はなかった」は10人いた。そのうち2人は授業で歌が扱われておらず, 別の1人は教科書の歌は扱われず, 教科書以外の歌が1曲だけ扱われていた。また別の1人は教科書の歌1曲だけALTが来た時に扱われていた。さらに別の1人は中学校1年生と3年生の教科書の歌1曲ずつ扱われていたが, 「ただ聴いただけ」で, 他の1人は中学校1年生の時に教科書の歌が1曲扱われていたがディクテーションを行っただけで, 中学校3年生では歌は扱われていなかった。また他の1人は中学校1.2年生の教科書の歌は扱われ, ディクテーションや歌ったりしているが中学校3年生では歌が扱われていなかった。教科書の歌は扱われていなかったが複数の歌を歌ったという生徒が1人, 残りの2名は教科書や教科書以外の歌が扱われ, 歌っただけの生徒とディクテーションまで行った生徒に分かれた。「特に効果はなかった」と認識している調査対象者については, より踏み込んだコメントを取る必要があった。

5. 考察

本研究では, 研究課題を4つ設定した。まず, 「① 中学校英語教科書に記載されている歌は, 授業で扱われているか。扱われている場合, どのように扱われてい

るか。」について検証する。授業で全く扱われていない歌も存在するが、多くの教科書の歌は、授業で歌うだけでなく、曲を聴きながら書き取りを行ったり、ただ数回聴いたり、暗唱を行ったり、テストに出題されるなどの形で扱われていることがわかった。中学校1,2年生の時の歌の扱いの比較については、「授業で歌った」「ディクテーション」の項目で本研究は甲斐（2014）より人数が大きく減っていたが、中学3年時の歌の扱いについては、人数がほとんど変化していなかった。むしろ中学3年時には全体から見るとその割合が増えていたことになる。本研究で“I Just Called to Say I Love You”や“Hello, Goodbye”が授業で多く扱われていたが、これは甲斐（2014）と同様の傾向であった。ただし、本研究では、扱われていない歌が複数見られた。調査対象者数の違いもあるが、扱われていない歌については教科書改訂の際、掲載するかどうか検討する必要があるだろう。

次に「② 教科書以外で扱われている歌はあるか。」について検証する。授業以外で扱われている歌は甲斐（2014）同様存在した。上位5位だけ比較するとほぼ同じような順番で歌が並んでいるが、本研究では“Let It Go”が1位となった。この他にも2010年代の歌が上位に入ってきており、最近の流行歌が授業で用いられていることがわかる。

「③ よく覚えている歌はあるか。」については、よく覚えている歌は、調査対象者の回答から多数存在した。甲斐（2014）で見られた上位の歌がいくつか見られるが、ビートルズの歌が上位から消えているのが大きな相違点と言えるだろう。

「④ 英語の授業を通じて学習した歌は、学習者に効果はあるか。」については、音声面を中心に効果を実感している学習者が多かった。また文法力や語彙力もついたと感じている調査対象者が多数存在することがアンケートの結果から判明した。「歌詞を通じて物の見方が変わった」は9人いたが、具体例が乏しかった。また、英語の歌を通じて、英語や歌などに対して好意的な見解を示すコメントが見られたことから、適切な歌を授業に活用することで、学習者への英語や歌に対するよい動機づけになると思われる。「特に効果はなかった」と回答した調査対象者は10人いたが、さらに踏み込んだコメントを求めるなどの工夫が必要であった。

授業で扱われている歌やよく覚えている歌の上位の曲は、甲斐（2014）と共通しているものもあるが、1970年代、1980年代にヒットした歌だけでなく、“Let It Go”のように最近流行した歌も授業で扱われていることがわかる。特に“We Are the World”は、扱われている歌として、また学習者がよく覚えている歌として、甲斐（2014）同様、本研究でも上位に入っていた。アフリカの飢餓で苦しむ人々を助けようとして作られたこの歌は、リズムだけでなく歌詞も学習者の記憶に残るものがあるものと思われる。一方で、教科書に掲載されていても扱われていない歌もあった。特にSSの“Tie a Yellow Ribbon Round the Ole Oak Tree”は、甲斐（2014）でも本研究でも扱われていなかった。教科書改訂時に掲載の有無を検討してもよいだろう。

6. おわりに

本研究は、平成29年度に入学した高校生を対象に、中学校の授業での歌の扱い及び歌が持つ効果についてアンケートを実施し、その結果を分析してきた。中学校では、教科書に掲載されている歌だけでなく、教員や生徒の選曲による歌も授業で扱われていることが今回の調査でも判明した。また扱われている歌やその扱われ方も甲斐（2014）に類似の傾向であったが、“Let It Go”のように近年流行した歌が上位に入るなど多少の変更も見られた。なお、調査対象者は、音声面を中心として、文法力や語彙力が伸長したと感じているだけでなく、英語や歌などに対して好意的な見解を示すコメントが見られたことから、適切な歌を授業に活用することで、学習者への良き動機づけになると考えられる。

平成29年に告示された学習指導要領の解説では、言語活動で扱う題材について、児童や生徒の興味・関心に合ったもので、音楽科を含めた他教科等で学習したことを活用することが記載されている（文部科学省、2017a, 2017b, 2017c）。今後小学校3年生から外国語活動が、また小学校5年生から英語が正規の教科として学習される。中学校英語教科書に掲載する歌について各教科書出版社は再考が迫られることになるだろう。本研究がその一助になることを切に願う。

本研究についての限界点をいくつか指摘しておきたい。本研究は、甲斐（2014）より調査対象者が少なく、単純に比較するという点で課題がある。また本研究では中学校で学習した歌について、入学したての高校生を対象にアンケートを実施しているが、中学生を対象に実施することが望ましかった。歌を扱っている教員が、授業で扱った歌をリストにして実施するとよりの確な情報を収集することができたと思われる。その際、例えば、「歌によってスピーキング力がついたと感じる」などを歌の効果の項目に加えて実施すると、先行研究で歌が話す力に効果があると指摘されていることから、より多面的に歌の効果の分析ができるだろう。

英語の授業での歌の使用とその効果には、生徒の特性および授業を担当する教員の裁量や属性（力量、年齢層、嗜好など）が影響すると考えられる。生徒の出身中学や指導を受けた中学校教員の属性も調査することにより、授業での歌の使用とその効果を検証できるものと思われる。今後の研究課題としたい。

注

- 1) 原文では、their reflectivity of mother tongue culture となっている。英語を母語とする人にとっては、英語圏の歌は mother tongue culture となるが、日本人学習者にとっては異文化となる。ここでは「母語」と原文のまま訳している。
- 2) “We Are the World”, “Top of the World”などは、扱われていない教科書で学習した生徒が回答している。
- 3) 査読者1名から「よく覚えている」の定義の曖昧性を指摘された。すでにアンケートは実施済みのため、修正はせずに、今後の研究課題としたい。
- 4) 甲斐（2014）で分析対象とした英語教科書で使われていた歌のうち、TE 以外

の教科書では歌が変更されている。

- 5) 査読者1名からSSの8人について、同一中学校出身者の可能性の指摘を受けたが、2人が同一中学校出身で、他の6人はそれぞれ異なる中学校出身であった。
- 6) 査読者1名から教科書別の分析を提案されたが、中学校1, 2年次と3年次では異なる教科書を用いている調査対象者がいるため、ここでは中学校3年用教科書に記載されている“We Are the World”と“Top of the World”のみ、教科書毎の人数を本文の中で示すことにとどめている。
- 7) 査読者からこの質問項目に関して、「歌の授業を受けた効果」について言及がないため、結果の解釈について疑問が寄せられた。アンケートのタイトルを「英語アンケート（歌について）」とし、調査項目の5番目に「歌詞を通じて物の見方が変わった（具体例）」を記載して実施していたので、文脈から歌の効果について問うたつもりではいたが、厳密性に欠けていた点は否めない。

参考文献

- Harmer, J. (2015). *The practice of English language teaching* (fifth edition). Harlow: Pearson Education.
- 甲斐 順. (2014). 中学校で学習した英語の歌について —高校生のアンケートを通じて— 言語表現研究, 30, 15-26.
- Millington, N. T. (2011). Using songs effectively to teach English to young learners. *Language Education in Asia*, 2(1), 134-141.
- 文部科学省. (2017a). 小学校学習指導要領解説外国語編. Retrieved August 7, 2017, from http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afiedfile/2017/07/25/1387017_11_1.pdf
- 文部科学省. (2017b). 小学校学習指導要領解説外国語活動編. Retrieved August 7, 2017, from http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afiedfile/2017/07/25/1387017_13_1.pdf
- 文部科学省. (2017c). 中学校学習指導要領解説外国語編. Retrieved August 7, 2017, from http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afiedfile/2017/07/25/1387018_10_1.pdf
- 文部省. (1951). 中学校・高等学校学習指導要領外国語科英語編（試案）改訂版. Retrieved September 1, 2013, from <http://www.nier.go.jp/guideline/s26jhl1/jp-chap4.htm>
- 文部省. (1958). 中学校学習指導要領. Retrieved September 1, 2013, from <https://www.nier.go.jp/guideline/s33j/chap2-9.htm>
- 中井 弘一. (2000). 英語授業で音楽は活用できるか. 斎藤栄二, 鈴木寿一（編著）. より良い英語授業を目指して：教師の疑問と悩みにこたえる. (pp. 219-221). 東京：大修館書店.
- 須田 智之. (2017). 英語で発信する授業の第1歩 英語教育, 66(1), 16-17.
- 瀧口 優. (2003). 「苦手」を「好き」に変える英語授業. 東京：大修館書店.

分析対象とした中学校英語教科書

中学校英語検定教科書（平成24年度版）

NEW HORIZON English Course 1, 2. 東京：東京書籍.

NEW CROWN ENGLISH SERIES 1, 2. 東京：三省堂

TOTAL ENGLISH 1, 2 NEW EDITION. 東京：学校図書.

SUNSHINE ENGLISH COURSE 1, 2. 東京：開隆堂.

ONE WORLD English Course 1, 2. 東京：教育出版.

COLUMBUS21 ENGLISH COURSE 1, 2. 東京：光村図書.

中学校英語検定教科書（平成28年度版）

NEW HORIZON English Course 3. 東京：東京書籍.

NEW CROWN ENGLISH SERIES New Edition 3. 東京：三省堂

TOTAL ENGLISH 3. 東京：学校図書.

SUNSHINE ENGLISH COURSE 3. 東京：開隆堂.

ONE WORLD English Course 3. 東京：教育出版.

COLUMBUS21 ENGLISH COURSE 3. 東京：光村図書.

（かい じゅん・神奈川県立柏陽高等学校）

資料

英語アンケート（歌について）

1 年（ ）組 性別（ 男 ・ 女 ）

今後の指導の参考とするために、以下及び裏面の質問に答えてください。

1. 中学校 1 年生・2 年生 で使っていた英語教科書名を丸で囲んでください。

(1) ニューホライズン (2) ニュークラウン (3) トータルイングリッシュ
(4) サンシャイン (5) ワンワールド (6) コロンブス21

2. 以下は中学校 1, 2 年生 の教科書に載っている歌です。自分が使っていた教科書から、英語の授業で扱われた歌をすべて丸で囲んでください。扱われなかった場合は、何も記入せず、裏面の質問に答えてください。

(教科書名及び歌名省略)

3. 上記 2 で、丸で囲んだ歌は、どのように扱われましたか。(複数回答可)

(1) ただ数回聴いただけ (2) 曲を聴きながら、歌詞の穴埋めを行った (ディクテーション)
(3) 授業で歌った
(4) その他 ()

4. 中学校 3 年生 で使っていた英語教科書名を丸で囲んでください。

(1) ニューホライズン (2) ニュークラウン (3) トータルイングリッシュ
(4) サンシャイン (5) ワンワールド (6) コロンブス21

5. 以下は中学校 3 年生 の教科書に載っている歌です。自分が使っていた教科書から、英語の授業で扱われた歌をすべて丸で囲んでください。扱われなかった場合は、何も記入せず、7 以降の質問に答えてください。

(教科書名及び歌名省略)

6. 上記 5 で、丸で囲んだ歌は、どのように扱われましたか。(複数回答可)

(1) ただ数回聴いただけ (2) 曲を聴きながら、歌詞の穴埋めを行った (ディクテーション)
(3) 授業で歌った
(4) その他 ()

7. 中学校の英語の授業で、教科書以外に扱われた歌があれば、教えてください。

8. 中学校の英語の授業で扱われた歌の中でよく覚えている歌は何ですか。(複数回答可)

9. 中学校の英語の授業を通じてどのような効果がありましたか。(複数回答可)

(1) リスニング力がついた (2) 英語のリズムやイントネーションが身に付いた
(3) 文法力がついた (4) 単語力がついた (5) 歌詞を通じて物の見方が変わった
(具体例) (6) 特に効果はなかった (7) その他 ()

ご協力ありがとうございました。